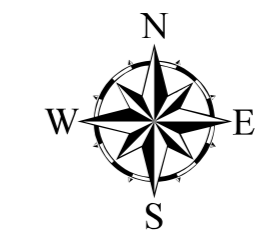




# 須崎港 津波防災情報図(引潮図)

計算条件：最低水面  
陸起量：平均 -173cm(-194cm ~ -151cm)

津波は、震源の位置、規模、細かな地形の影響などにより、試算した津波と異なることがあり、過去には、今回の津波の試算より大きな津波が来たことがある。



1:30,000

座標系：メルカトル図法  
測地系：世界測地系(WGS-84)

### 凡例

露出域

経時変化図出力点

### 最大水位低下

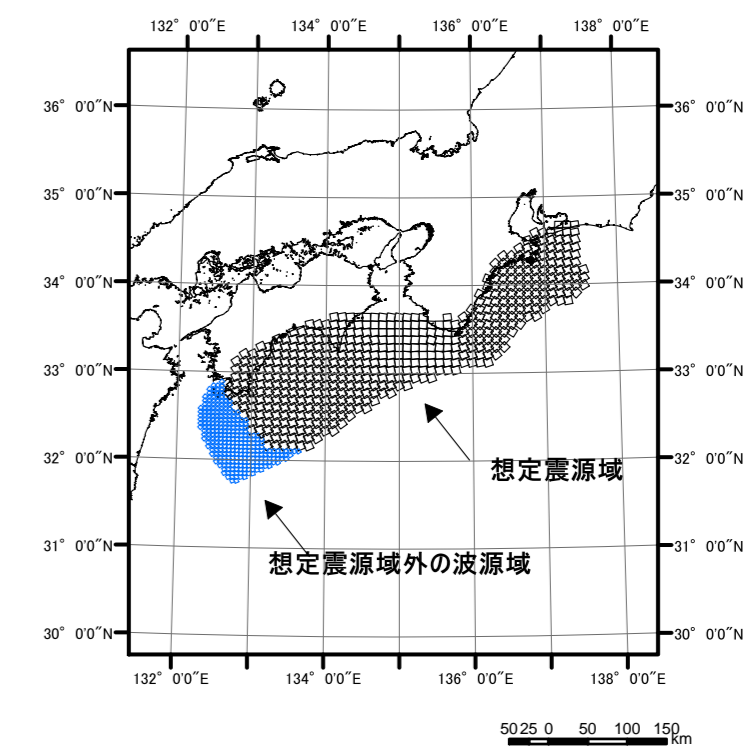
- 600~最大1070cm
- 550~600cm
- 500~550cm
- 450~500cm
- 400~450cm
- 350~400cm
- 300~350cm
- 250~300cm
- 200~250cm
- 150~200cm

### 進入時最大流 [knot]

- 12 knot
- 8 knot
- 4 knot

・海岸構造物は、地震・津波の影響を受けないものとして計算している。

### 想定震源域と波源域の位置

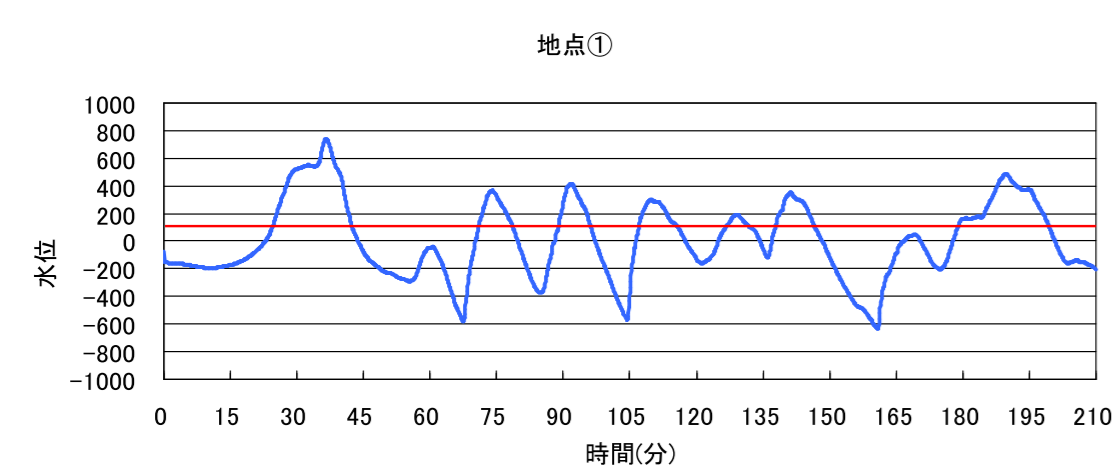
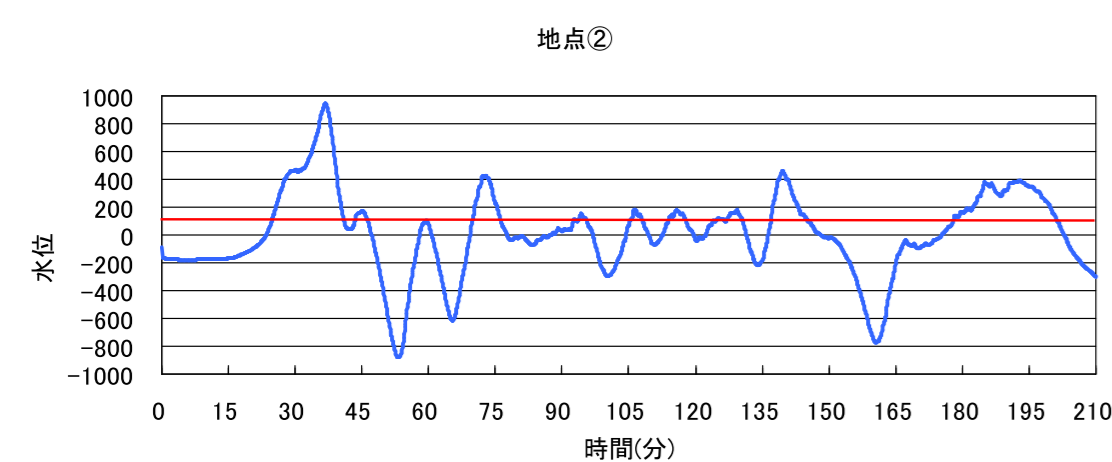
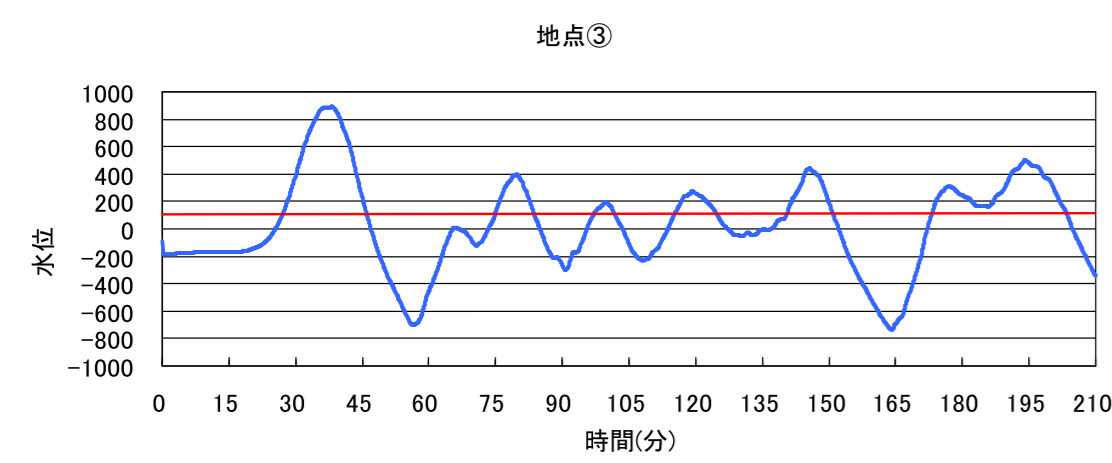
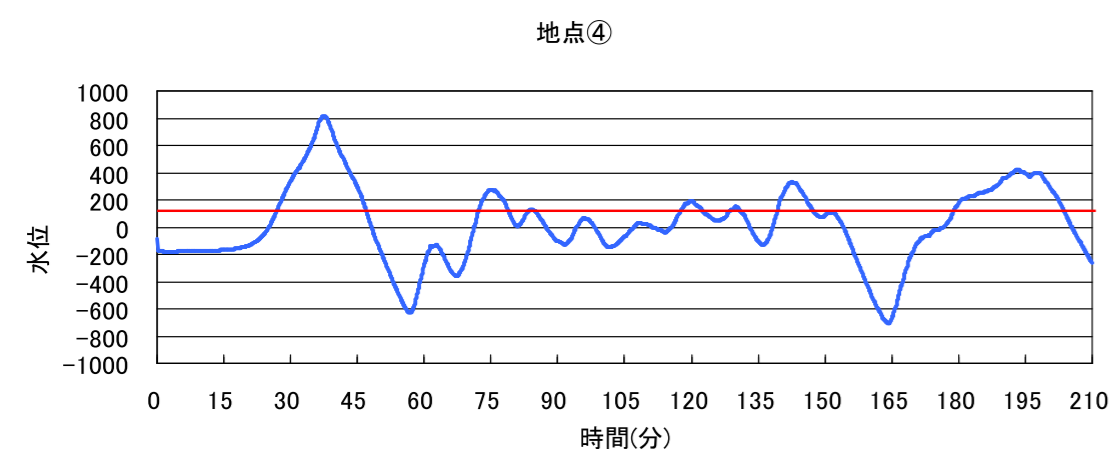
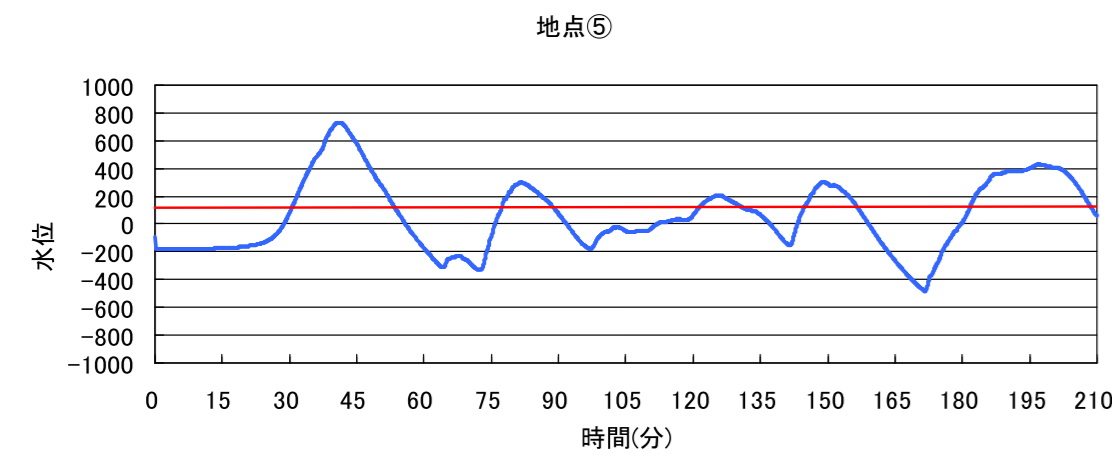


マクロ的に見たパラメータ	南海地震	東南海地震
断層面積 S (km <sup>2</sup> )	約 36,500	約 14,500
地震モーメント Mo (N·m)	8.34 × 10 <sup>21</sup>	2.15 × 10 <sup>21</sup>
平均すべり量 D (m)	5.70	3.63
モーメントマグニチュード Mw	8.55	8.15

・本図は、中央防災会議「東南海・南海地震等に関する専門調査会」で公表された断層モデル及び断層パラメータを使用した。

作成機関：海上保安庁  
作成年月：平成18年3月(初版)

経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。



- ・試算には、海上保安庁海洋情報部のJ-EGG500、J-BIRD、沿岸の海の基本図地形データ及び海図を作成する際の基礎データを使用した。
- ・この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平17総使、第760号)
- ・この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものである。(承認番号 平17総使、第569号)

